

カラーコーディネイト

指導目標	色を知り、色を意識することで視野を広げ、色彩感覚を磨くとともに、目的にあったカラーコーディネーションを実現できる実力や目的に合わせて色を活用できる実力を身に付け、実際に配色を行うことによって色のイメージ効果、色の心理作用を目と心で感じてもらう。色への興味を引き出し育てる。
------	--

教材	教科書 色彩検定 文部科学省後援 公式テキスト 3級編 レポート (カラーコーディネイト課題集・実習課題) カラーコーディネイト総合問題
----	--

レポート	全6回
面接指導	必要時間数：6時間
放送	なし
効果測定・試験	なし

単位	3単位
評価	レポートの提出状況 (提出期限) および各回評価、スクーリング出席状況 (必要時間の出席充足) を総合的に評価し判定。

添削指導 (レポート)		面接指導 (スクーリング)		放送 (NHK高校講座)		オンライン指導		到達度チェック 年度末試験	
月	回数(提出期限)	指導単元・項目	週	指導内容・学習活動等	放送なし		指導なし		試験等実施はなし
4			1	第1回レポートの範囲 色のはたらきP5~8 色はなぜ見えるのかP9~18 ・色が見えるために必要な三要素について理解する。 色の混色P24~30 ・加法混色と減法混色の違いについて理解し、ライトやフィルターを用いてそれぞれの混色を目でみてつかみ、三原色が揃った状態について理解する。					
			2						
			3						
			4						
5			1	色の表示 P31~48 ・色の三属性 P33図3のやり方を用いて、カラーカードを色相・明度・彩度に分類を実践する。 ・PCCS カラーカードで実作し色相の流れに気づかせる。 ・トーン それぞれのトーンのカラーカードを実際目で見てイメージを感じる。 それぞれのイメージを、トーンの明度領域・彩度領域、純色・明清					
			2						
			3						
			4						
6	第1回 (6月5日)	色のはたらき 色はなぜ見えるのか 眼のしくみ 照明 色の混色	1	第2回レポートの範囲 色彩心理P49~68 ・色の心理効果を感じ取る。(例えを用意する。)三属性と結びつけて捉える。 ・人は色から「赤」や「青」といった色情報を受けるだけでなく、同時に印象やさまざまな感情も受けることの面白さに気づかせ、好きな傾向とイメージに触れる。 ・ノンバーバルコミュニケーションとしての色の持つメッセージ性に触れる。 色の視覚効果P58~68を理解する。					
			2						
			3						
			4						
7	第2回 (7月5日)	色の表示	1						
			2						
			3						
			4						
8			1						
			2						

8	第3回 (8月25日)	色彩心理	3 4				
9			1 2	色彩調和P69~102 カラーカードを使って、「色相をてがかりにした配色」「トーンをてがかりにした配色」「色相とトーンを組み合わせた配色」を作成し、配色ルールによる「統一」と「変化」の違いを理解する。			
			3 4		配色イメージP103~108 イメージを表すための色使いを練習する。表現された配色を目と心で感じて学ぶ。		
10			1 2				
	第4回 (10月25日)	色彩調和	3 4				
11			1 2				
	第5回 (11月25日)	配色イメージ	3 4	ファッション・インテリア P109~126 実践として、カラーカードなどを使って「ファッションカラーコーディネート」・「インテリアカラーコーディネート」を作成する。			
12			1 2	目的にあった配色を作成できる、作りたいイメージを作成できる面白さに触れる。自ら彩った表現が人の喜びになることを知る。			
	第6回 (12月25日)	ファッション・インテリア	3 4				
1			1 2				
			3 4				
2			1 2				
			3 4				

3		1				
		2				
		3				
		4				